



SERVICE CLUB WITH THE YMCA

Chartered Feb. 6, 1931

## Y'S MEN INTERNATIONAL TOKYO CLUB

C/O TOKYO YMCA TOYOCHO CENTER, 2-2-20, TOYO, KOTO-KU, TOKYO, JAPAN (135-0016) TEL.(TOKYO)3615-5568

Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

ワイズメンズクラブ国際協会東京クラブ(東日本区東新部) 135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 東京YMCA東陽町センター 電話03-3615-5568

会 長：渡邊 実帆  
副 会 長：  
直前会長：進藤 重光  
書 記：佐々木行恵  
会 計：加藤 義孝  
担当主事：山梨 雄一

とうきょう

例 会 第2火曜日18:30~20:15  
於・東京YMCA東陽町センター  
役員会 第3火曜日18:30~20:00  
於・東京YMCA東陽町センター  
問い合わせ 電話 03-3615-5568

2026年7月~2027年6月10月号

◆国際会長主題：ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる

◆地域会長主題：アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる

◆東日本区理事主題：挑戦なくして進化なし

◆東新部部長主題：顔を上げよう！

◆クラブ会長主題：集う喜び、響くハーモニー、そして未来へ

月間強調＝東日本区:ASF クラブ:EMC

今月の聖句

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

出典 コリントの信徒への手紙一 13章4-6節

『聖書 新共同訳』—新約聖書 (c)共同訳聖書実行委員会 (c)日本聖書協会

## 10月例会EMCナイト

## 東京クラブ・東京むかでクラブ合同例会

日時：2026年10月20日（火）18:00~20:00

会場：東京YMCA東陽町センターYMCAホール

東京都江東区東陽 2-2-20 (03-3615-5568)

受付：小島康良、佐々木行恵

- |                                       |                |
|---------------------------------------|----------------|
| 1. 開会点鐘                               | 司会 伊丹一之 (む)    |
| 2. ワイズソング                             | 会長 今井武彦 (む)    |
| 3. 聖書朗読、祈祷                            | — 同            |
| 4. ゲスト・ビジター紹介                         | 宮田康夫 (む)       |
| 5. ワイズディナー (会員消息、諸報告)                 | 会長 今井武彦 (む)    |
| 6. Happy Birthday! Happy Anniversary! |                |
| 7. 今年の野尻学荘を振り返る                       |                |
| むかでC本多良章担当主事とリーダー3名                   |                |
| 8. スマイル                               | 各クラブ (会計 加藤義孝) |
| 9. YMCAの歌                             | — 同            |
| 10. 閉会点鐘                              | 会長 渡邊実帆 (東)    |

10月12日(祝) Y友広場ワイワイウォーク深川江戸散歩

10月27日(火) 東京クラブ役員会 (Zoom)

11月23日(祝) 大江戸ファミリーウォーク(東陽町)

11月26日(木) 第2回東新部評議会(山手)

12月13日(日) クリスマスオープンハウス(東陽町)

12月15日(火) 東京クラブクリスマス例会(東陽町)

1月 9日(土) 在京ワイズ合同新年会(東陽町)

3月 6日(土) 東新部部コンベンション(東陽町)

## お別れ

星野太郎



おそらく、もう40年ほどになるでしょう。いつも君との時間から一日が始まりました。大震災の時も、選挙の時も、大谷がホームラン王になった時も、どんな出来事も朝一番に君と一喜一憂してきました。そんな君をそのまま朝の通勤電車に連れ込んでいた時期もありましたね。学生の頃は、

その日のテレビ番組とプロ野球の結果だけを気にして、君にそっけなく接していた時期もありました。でも、ずっと大切にしたいと思わせる君の言葉にも、たくさん出会いました。それらは今でもストックしてあります。

だから、長い間傍らにいてくれた君とお別れするのは、やはり寂しいです。お別れを決めるまでは、本当にこれでよいのか、真剣に悩みました。でも、きっと君のいない朝にもすぐに慣れるでしょう。君の代わりに付き合い始めた新たなパートナーも、十分に素敵なのです。

この10月で、朝刊を受け取るのはおしまい。思い切ってデジタル版への変更を決めました。もし本当に紙面が恋しくなったら、また復縁をお願いするつもりです。最後の配達日は10月31日。まもなく、別れの日がやってきます。

| 9月の記録    |      | 出 席  |      | 出席率修正 | BFポイント |     | ファンド    |          |
|----------|------|------|------|-------|--------|-----|---------|----------|
| 在 籍      | 19 名 | メネット | 1 名  |       | 切 手    | 0 g | スマイル    | 5,110 円  |
| 内功労・広義会員 | 6 名  | コメット | 0 名  |       | 累 計    | 0 g | 累 計     | 13,210 円 |
| 出 席      | 10 名 | ゲスト  | 3 名  |       | 現 金    | 0 円 | オークション  | 0 円      |
| 内功労・広義会員 | 1 名  | ビジター | 14 名 |       | 累 計    | 0 円 | 累 計     | 0 円      |
| メーキャップ   | 1 名  |      |      |       |        |     | バン格拉バッグ | 350 円    |
| 出席率      | 77 % | 出席計  | 28 名 |       |        |     | 累 計     | 350 円    |

★強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う★

## 9月例会ワイズ理解ナイト報告

長澤 弘

日時: 2026年9月8日(火) 18:30~20:30

会場: 東京YMCA東陽町センターYMCAホール+Zoom

東京クラブ・東京むかでクラブ9月合同例会は東陽町センターで会場・WEB参加合わせて28名が集まりワイズメンズクラブの仲間である弁護士大槻展子さんの講話「パリで考えた日本の刑事司法ー世界から取り残された司法の現実ー」と題した死刑廃止の世界動向の話をしてもらいました。難しい問題ですが我々すべてが考えなければならない問題です。参加者全員が真剣に話に聞き入りました。少し長くなりますがAIによる講演要旨を記します。

袴田事件の再審無罪判決を起点とし、死刑制度をめぐる国際社会の動向と日本の現状、そして死刑制度を維持し続けることが日本にもたらす弊害について多角的な議論が展開された。58年という極めて長い苦闘を経て確定した袴田巖氏の再審無罪判決は、単なる昭和の捜査ミスという過去の不幸事に留まるものではない。この事象は、日本の刑事司法ならびに死刑制度が孕む根本的な構造問題を鮮明に浮き彫りにしている。死刑という取り返しのつかない刑罰と冤罪のリスクは不可分であり、制度の是非そのものを問い直す本質的な課題である。日本国内では、死刑制度の維持や廃止をめぐる議論は「国内の治安や国民感情、世論に基づいて独自に決めるべきお家事情である」と捉えられがちであり、諸外国からの指摘を軽視する傾向が根強い。しかし、国際社会における死刑制度の捉え方はそれとは大きく異なっている。死刑は単なる一国の刑事政策の域を超え、人類全体が共有し尊重すべき普遍的な人権の課題として位置付けられているのである。実際、欧州連合(EU)をはじめとする国際社会は、日本の死刑制度に対して強い懸念を抱いている。日弁連等の枠組みを超えて設置された「日本の死刑制度について考える懇話会」には、かつて警察庁長官や検事総長を務めた要職経験者から死刑反対派、被害者遺族まで極めて多角的な立場の人物が参加し、オープンな議論が重ねられてきた。この活動に対してEUやオーストラリアなどが多大な予算や支援を提供している事実は、国際社会が日本の死刑制度の行方をいかに注視し、かつ真剣に憂慮しているかを象徴している。彼らにとって人権問題は国家の枠組みを超えた普遍的価値であり、日本が国際的な人権基準へと歩み寄ることを切望しているのである。世界全体を見渡すと、2025年時点において、法律上あるいは事実上に死刑を廃止している国は145カ国に達しており、全国家の4分の3に及ぶ。治安情勢、政治体制、宗教、歴史的背景がそれぞれ異なる多様な国々が、最終的には「国家が人命を奪う死刑という制度を行使しない」という決断を下してきた。近年では、レバノンが2024年8月に死刑廃止へと舵を

切ったことが注目される。レバノンには過去に殺人や国家叛逆罪に対して死刑を定めており、2004年以降は執行を停止するモラトリアム状態を維持していた。同国は政情不安やテロ、深刻な政治的混乱を抱える国であり、一般的には「厳罰や死刑によって治安を維持すべきだ」と考えられがちな環境にある。しかし、同国の法務大臣は「自らが経験した暴力の悲劇そのものが、復讐の連鎖を断ち切る理由になる」と強調し、死刑廃止へと踏み切った。この決断は、治安維持や社会の混乱を死刑維持の口実にする論理を根底から覆すものであり、人権思想の深い洞察を示している。また、アジア太平洋地域においても死刑廃止や適用縮小の動きは着実に広がっている。マレーシアは強制死刑(特定の犯罪に対して裁判官の裁量なく死刑を義務付ける制度)を廃止し、これにより1200人以上いた死刑囚の大部分が減刑され、現在は100人未満にまで減少した。さらに政府主導の委員会を立ち上げ、制度全体の廃止に向けた法整備を進めている。台湾では2024年の憲法判決により死刑自体は違憲とされなかったものの、死刑判決には全裁判官の一致を要求するなど厳格な正当手続きを課すことで、事実上の適用を強く制限した。韓国も1997年12月を最後に四半世紀以上にわたり死刑を執行しておらず、実質的な廃止国となっている。インドネシアなども含め、日本にとって身近なアジア諸国がそれぞれの歴史と向き合いながら死刑の適用範囲を絞り込み、廃止へ向けて進展を見せている。これに対し、日本の状況は対照的である。2025年に死刑を執行した国は世界でわずか17カ国にとどまっており、日本はその数少ない執行国の一つとして名を連ねている。執行を行っている国の多くが年間多数の執行を重ねる中で、日本が国際社会において死刑を維持・執行し続けていることは、世界の潮流からの著しい孤立を際立たせている。さらに、日本が死刑制度を維持し続けることは、国際倫理上の批判にとどまらず、日本自体の国益や実務的な司法手続きにおいても深刻な弊害を生み出している。凶悪犯罪者が国外へ逃亡した場合、逃亡先の国が死刑廃止国であれば、「引渡後に死刑に処される恐れがある」ことを理由に、犯罪人引渡条約の締結や実際の引き渡しを拒否される事態が発生する。その結果、日本国内で重大な犯罪を犯した者を日本の法廷で裁くことが不可能になるという不条理が生じている。本来、治安の維持や正義の実現を目指して維持しているはずの死刑制度が、皮肉にも自国の刑事司法の権限行使を阻害する要因となっているのである。また、国防や安全保障の観点から自国を重視し、防衛力を強調する立場の人々の間でも、この問題は無視できない課題となりつつある。オーストラリアやイギリスをはじめとする主要な同盟国・友好国との間で防衛協力や軍事的な連携を深めようとする際、相手国が死刑廃止国である場合、日本側の死刑制度が瓶頸(ボトルネック)となり、合意や協力関係の深化に支障をきたす場面が生じる。このように、

世界各国が人権の尊重と復讐の連鎖防止に向けて死刑廃止へ舵を切る中、日本のみが過去の思考にとらわれ、国際的な人権基準や法秩序の潮流から取り残されている。死刑制度の維持は、冤罪防止や人権保障の視点のみならず、国際的な捜査協力や同盟国との連携、さらには主権国家としての司法権の行使という実務的側面においても重大な障害となっている。日本社会はいま一度、世界の中における自国の立ち位置を直視し、死刑制度がもたらす現実的な影響と向き合いながら、刑事司法のあり方を抜本的に再考すべき時期に来ていると言える。

以上長くなりましたが私の感想を書き加えます。2つの相反する考え方があって非常に難しい問題かと思えます。しかし高齢者となって命のことを深く考え込むことが多くなり、大槻さんのお話を聞いて強い感銘と共感を覚えました。大槻さんの大活躍を仲間として誇りに思い、これからも弱者のことを良く考えた活動を続けられることを祈ります。



[出席者]東京:メン=磯田、春日井、加藤、小島、佐々木、長澤、星野、細川、松本(数)、山梨(10名)。メネット=細川(1名)。東京むかで:伊丹一之、今井武彦、神保伊和雄、宮田康男(4名)。ゲスト=大槻展子、木村俊輔、奈良昭彦(3名)。ビジター=東京多摩スマイル:石田孝次、伊藤幾夫、深尾香子、東京町田コスモス:権藤徳彦、山口和彦、東京ワイドウエスト:小原史奈子、山口直樹、東京八王子:久保田貞視、千葉ウエスト:高田一彦、十勝:山下真(10名)。合計28名。メーキャップ=渡邊(1名)。

## 9月役員会(第2例会)報告

書記 佐々木行恵

日時:2026年9月15日(火) 19:30~21:00

会場:Jitsi Meet

### I. 前回役員会記録承認

### II. 報告

#### 1. 運営とシステム面に関する反省

- オンラインの接続トラブルがあり、参加者より苦言
- 出欠データの共有方法の確認。

### III. 協議

## 1. 9月の例会

- 大槻氏の復会(オンライン参加)への誘い
- 謝礼の取り扱い:辞退→寄付金として会計処理
- オンライン会議のツール:例会・役員会はZoom

[出席者]メン=江口、加藤、佐々木、長澤、山梨、渡邊。合計6名。

## 東京YMCA

## インターナショナル・チャリティーラン報告

加藤義孝

日時:2026年9月26日(土) 10:00~14:00

会場:木場公園

当日は朝から小雨が降り、やや気温も下がり、どうなるか心配でしたが、小雨も弱まり何とか開会ができました。雨天のため東京クラブの応援団はいませんでした。にほんご学院の生徒は皆元気に参加してくれました。全体で48チームが参加しました。東京クラブは最初に私がトップを走り、にほんご学院の生徒が4人(男性)、女性は専門学校から1人参加していただき合計6人で走りました。成績は35位でした。高齢者が入っていますので成績はまずまずでトラブルもなく無事終了しましたから合格点でしょう。因みに1位は東雲YMCA、2位は東京YMCA東陽町センターです。参加者星野総主事、松本数実さん等、東京クラブ2名でした。



[東京クラブからの参加者]メン=加藤義孝(1名)。合計1名。

## 東京YMCA災害スタディ報告

長澤 弘

日時:2026年9月12日(土) 10:00~14:00

会場:東京YMCA東陽町センター

2026災害スタディ防災まち歩き「いざという時助けてくれるのは近所の人」が東京YMCA東陽町コミュニティーセンターの主催で、50名あまりのひとが参加して行われました。地元の人

たちが多かったのですがワイズから6名が出席し、色々た  
になる体験をしました。我が加藤義孝メンが副実行委員長と  
して開会の挨拶をされ、災害共同サポートセンターの福田事  
務局長の「防災街歩き」のお話し、東陽町の社会福祉協議会  
の方をリーダーとする街歩きのあと、保存用非常食による食  
事、深川消防団の方たちの指導でのAEDの体験、町田コスモ  
ス加藤祐一メンの指導による新聞紙を使った防災スリッパ作  
成などを体験しました。最近災害が多発しており我々眼の前  
の現実となっています。大変参考になりました。毎年このイベ  
ントを続けてこられている東陽町コミュニティーセンターの沖さ  
んをはじめとした皆様有難うございます。



[ワイズメンズクラブからの参加者]東京：加藤義孝、長澤弘、  
東京ひがし：金丸満雄、東京むかで：今井武彦、東京ワイドウ  
エスト：小原史奈子、東京町田コスモス：加藤祐一。合計6名。

## 第38回東日本区ユースボランティア リーダーズフォーラム 報告

江口耕一郎

日時：2026年9月4日（金）13:30～9月6日（日）14:00

会場：高尾の森わくわくビレッジ（東京都八王子市）

とちぎYMCAの主管により標記の会合が開催された。実  
行委員長は並木真ワイズ（東京八王子クラブ）。

BEYOND “US” —「私たち」の境界を越える—をテーマ  
に、「多文化共生」を一つの軸とし、異なる文化や背景

を持つ人との出会いを通して、「私たち」とは誰なの  
か、自分と他者との間にある境界について考えるプログ  
ラムが組まれた。東日本区10のYMCAからユースリーダー  
28名、ワイズ26名が集まり、3日間をともに過ごした。

基調講演は、在日大韓基督教会 横須賀教会牧師 金迅  
野（キム・シンヤ）氏による「分断をのりこえて、『多  
文化／多現実』な『われわれ』をつむぐ」。他に日本  
YMCA同盟 横山由利亜氏とウクライナからの避難者カミ  
シャン・ダニール氏、中国籍の横浜市職員 白聖墨氏、ぐ  
んまYMCA社会人リーダー齋藤勇弥氏の講演があった。

従来の「ユースリーダーに何が求められているか？」  
といった内容とは異なり、高齢のワイズメンにも十分に  
勉強になるフォーラムであった。



[金迅野氏(左)と齋藤勇弥氏(右)]

[東京クラブからの参加者]メン＝江口。合計1名。

## YMCAだより

担当主事 山梨雄一

東京YMCA社会体育・保育専門学校では、9月19日から  
25日まで開催される第20回アジア競技大会の水泳競技  
において、本校学生が補助役員として大会運営を支えて  
います。6日間で延べ約250名の学生が参加し、日頃の学  
びを生かしながら国際大会の現場を経験しています。ま  
た、冬休みに向けて、キャンプや短期水泳・英語スクール  
など「ウィンタープログラム2026」の準備も進んでいます。  
10月6日には、東京YMCAにほんご学院で秋期入学式が  
行われ、多様な国・地域から25名の新入生を迎えます。  
東京ワイズの皆さまにもご臨席いただく予定です。



Happy Birthday

長澤弘、持田二郎

Happy Anniversary

該当者なし